

高等学校 令和6年度（2学年用）教科

国語

科目 文学国語

教科 国語

文学国語

単位数：

3

単位

対象学年組：第 2 学年 A 組・E 組

教科担当者：

使用教科書：（文学国語 数研出版）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】

実社会や実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けて、適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

考える力を身に付け、それを他者と伝え合う中で表現したり、考えを広げたりする力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な文章を読んだり、味わったりすることを通して言語感覚を磨き、国語の力を伸ばそうとする態度を養う。

科目 文学国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	○深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 読書・表現	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	文学の扉／「山月記」（中島敦）	・本文全体から、虎になる前の李徴の人物を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。	○	○	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	○		9
						○		
	読書活動①「点検読書／小説」	・奥付の見方を理解する。 読む本を決めるために読む「点検読書」を通して、書籍に触れ、自己の読書に生かす。 ・図書館の本に触れる。		○	本の構成や内容について理解するために、複数の本に触れ、自己の読書に生かそうとしている。		○	2
	第1学期中間考査			○	○	○		1
	文学の扉／「山月記」（中島敦）	・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。	○		8
					人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。		○	
	詩歌/短歌	・それぞれの歌について、句切れやリズムに注意しながら、声に出して読む。 ・それぞれの歌で工夫された表現を確認し、感動の中心はどこかを考える。 ・印象に残った歌を選んで、鑑賞文を二百字程度で書く。	○	○	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の長所や課題を捉え直したりしている。	○		8
					学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。		○	
2 学 期	短歌の創作	・テーマに合わせた短歌を創作する。		○	言葉を適切に選び、趣深い作品にするために取り組もうとしている。		○	8
	第1学期期末考査			○	○	○		1
	読書活動②「点検読書／新書」	・新書について知る。 ・奥付の見方を理解する。 ・新書の「点検読書」を通して、本の選び方や読み方を習得する。 ・図書館の本に触れる。		○	小論文作成や進路活動に生かすために、新書について理解しようとしている。		○	2
	「こころ」（夏目漱石）	・「私（＝先生）」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。 ・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、語り手の視点や場面・設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○		15
							○	
	第2学期中間考査			○	○	○		1
	「こころ」（夏目漱石）	・「私（＝先生）」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。 ・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、語り手の視点や場面・設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○		10
							○	
3 学 期	文学的文章の創作／「物語のおわり」（湊かなえ）	・「そんな状況」とは、どのような状況かを「僕」の家族の現状を説明しつつまとめる。 ・「上場を避けてくれ」と頼まれるのと、「拓真のために、お父さんが決めたことなのよ」と言われるのとでは、「僕」の心情にはどのような違いが生じるかを考える。 ・「僕」の考える『空の彼方』の結末を読み取る。 ・『空の彼方』を読み思索をめぐらしたことで「僕」が気づいた自身の欠点は、どのようなことかを説明する。 ・『空の彼方』を読む前と、読んだ後で「紙束を置き、カメラを手にとった」ときとで、「僕」の心情はどのように変化したかを説明する。 ・『空の彼方』の結末を自由に考え、記述する。	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿ってスピーチをしようとしている。	○		8
							○	
	文学的文章の創作	・グループで小説や連詩を創作する。		○	小説や詩歌などの作品を共同で制作しようとしている。		○	6
	第2学期期末考査			○	○	○		1
	詩歌/永訣の朝（宮澤賢治）	・「純平の天の食」、「天上のアイスクリーム」とあったものが後に書き換えられた表現だが、このことによって読者が受ける印象はどのように変わるかを説明する。 ・「わたくし」の「いもうと」に対する心情変化を整理する。 ・「松の針」「無言の憂鬱」も合わせて読み、宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりについて、感じたことを話し合う。	○	○	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○		8
							○	
	古典と現代語訳/源氏物語	・三つの現代語訳には、表現上どのような違いがあるか、原文を参照しつつ、比較の視点ごとに分けてまとめる。	○	○	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 三つの現代語訳の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。	○		12
							○	
学年末考査				○	○	○		1
								101